UNITE FOR GOOD
Rotary MATSUMOTO EAST
２０２５－２０２６年度会報
会長／村山智計　幹事／吉池裕一
2025. 11. 21. №15 通算№1890

12 月 5 日(金)の予定
会員卓話、雑誌評論
12 月 12 日(金)の予定
ゲスト講演

事務所／松本市深志 1-1-21　中田歯科ビル 5F
TEL:0263-36-7737　FAX:0263-36-6009
例会場/ホテルブエナビスタ　例会日/金曜日 12:30
委員長/福田雅春
副委員長/北澤清隆　委員/土屋久
籾山志基　百瀬敏男　太田隆治

☆★☆★☆★

もらえるのか、応募はある程度の数が集まるのか不安がありましたが、委員の皆様・事務局濵さんに助けられ実施できるような感じにはなりました。

役割分担･進行はお手元の資料と説明をさせて頂いた通りとなります。不測の事態は生じるものと思われますが、経験豊富な皆様の対応力にお任せ致します。それでは来週、よろしくお願い致します。

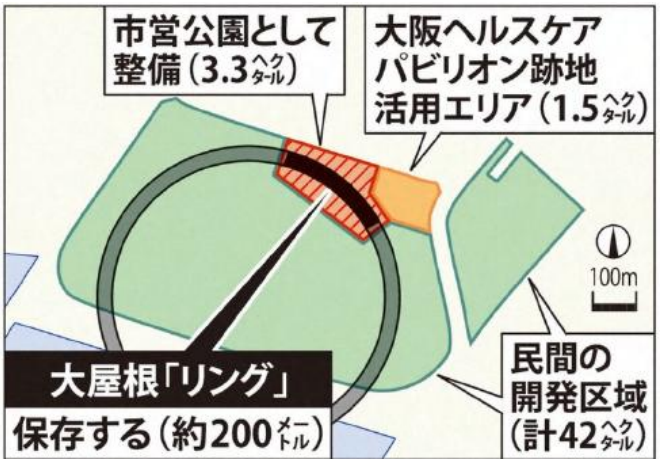
【会員卓話】飯嶌司会員

今日は、大阪・関西万博「大屋根リング」について、考えてみたいと思います。先月閉幕した大阪・関西万博、万博参加国や大学関係者、来場者などから、大屋根リングの全面保存を求める強い声が上がっています。

私も5月に訪れ、その巨大な規模に圧倒されました。大屋根リングは、高さ約 12～20 メートル、全長 2 キロメートルに及ぶ巨大な木造の円環構造物です。日本の伝統的な「貫(ぬき)」を応用した構造で、屋上は海やパビリオン群を一望できる歩行空間となっていました。

ここで、1970 年の万博で保存された太陽の塔と比較すると、太陽の塔は、建築面積約 1,000 ㎡の鉄骨・鉄筋コンクリート構造で、保存が比較的容易でした。一方、大屋根リングは約 60,000 ㎡と 60 倍の規模で、木造という脆弱性を抱えています。設計者の藤本壮介氏は「非中心」「離散」という思想でこのリングを設計しました。単なる通路ではなく、日本の伝統的な「縁側」のように、人々が憩い、出会い、風景を共有する空間。特定の中心を持たず、人々の動きとともに空間を形づくる、多様性そのものを体現した建築です。

しかし、保存には大きな課題があります。法的課題：仮設建築物から恒久構造物への変更には、建築基準法上の再申請が必要です。技術的課題：海辺環境での木材劣化、集成材の接着層の経年劣化、金属接合部の腐食が進行しています。大規模で継続的な補強・維持費が不可欠です。



大阪府の吉村知事は、全長2キロのうち北東側約 200 メートルだけを残す方針を示しています。10 年間で約 55 億円という市民負担を伴う案です。設計者の藤本氏は「中途半端に残すのが一番よくない」と言っています。「非中心」の理念を欠いた断片は、単なる残骸になりかねません。

ここで私が注目するのは、大阪工業大学客員教授の吉村英祐氏が提案する「半残し」案です。この案は、200m の実物を残し、残り 1.8km は柱の根本（42cm）を立方体のオブジェとして保存するものです。この発想は、2001 年 9 月 11 日のテロで崩壊したツインタワー跡地を整備した「ナショナル・セプテンバー11 メモリアル」に通じます。建物は再建せず、平面の形を巨大な滝として残し、毎年 9 月 11 日には 2 本の光の柱を夜空に灯す―“形のない記憶の建築”です。吉村教授は、1.8km の痕跡に沿って発光ベンチを設置し、夜には美しい「光のリング」を描き出すことで、かつての風景を幻想的に再現し、リング全体の記憶を継承できると述べています。ただし、この案は跡地の自由な開発を制限するという問題があり、実現は難しいと考えられています。吉村教授は「まだ時間がある。少しでも『全残し』に近い案の実現に向けて、英知が結集されることを強く期待している」と結んでいます。

【点鐘 13：30】　　村山会長

≪指名委員会≫13：40～